

地域と学校の 協働通信

令和 6 年 1 月 23 日
武蔵野市教育委員会
指導課教育推進室
第 15 号

特集

- 文部科学省の調査から
- 第一中学校協議会報告
- 杉並区立桃井第四小学校の「拡大版 CS 会議(6 年生児童が参加)」を見学してきました！

「学校運営協議会」設置校が全国の公立学校の半数以上に！

文部科学省の調査から

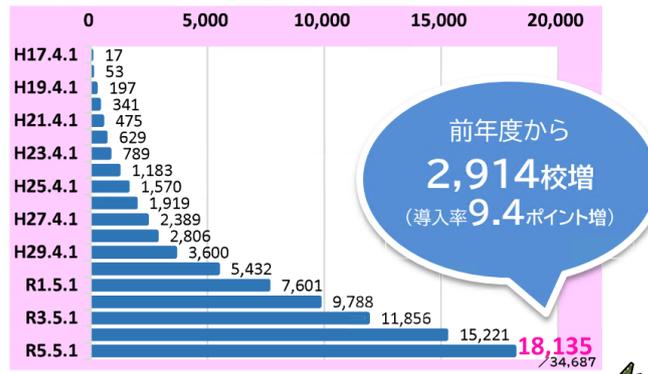
文部科学省は、11 月 28 日に「令和 5 年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況について」を発表しました。

それによると、全国の公立学校における「学校運営協議会」を設置した学校の数 は 18,135 校（導入率 52.3%）で、前年度から 2,914 校増（導入率で 9.4 ポイント増）となり、導入率が初めて 5 割を超えました。

本市においても、今年度から、境南小学校と第一中学校を「学校運営協議会」機能を付加した「開かれた学校づくり協議会」モデル校に指定して、その取組を本通信でお知らせしています。

令和 7 年度からの全市立小・中学校での「学校運営協議会」設置に向け、各学校では、現在の「開かれた学校づくり協議会」の一層の活性化に向けた取組をお願いいたします。

「学校運営協議会」を設置している学校数



学校運営協議会機能を有する開かれた学校づくり協議会(モデル校)の報告



第一中学校 第 6 回協議会

第 7 回は、1 月 23 日(火)
午後 3 時からです(予定)

継続して行ってきた部活動の見守り等の支援について、実施してみたの気づきや課題の共有を行いました。

実際に見守りを通して生徒や顧問の先生等と関わる中で、「何回か顔を合わせているとコミュニケーションがとれてきた」などの手応えとともに、生徒の出欠確認の手立てや緊急時の対応マニュアル、顧問の先生や生徒との顔合わせが必要ではないか、などの話が出されました。

中嶋校長先生からは、「はじめから完璧を目指すのではなく、一歩ずつで。」「先生方からは『ありがたい』との声が上がっている」との話がありました。

point!

境南小学校・第一中学校の開かれた学校づくり協議会には、「事務局担当者」がいます

事務局担当者はモデル校に勤務し、委員、学校、教育委員会と連絡・調整しながら、開催通知作成、資料準備、広報活動、会議開催準備、会議記録の作成などの事務を行っています。両校ともに、副校長等事務補助であり学校のことをよく知っている方が兼務しているので安心感があります。これまで事務を担っていた副校長先生方の負担軽減を図るとともに、円滑な協議会運営に欠かすことのできない役割を担っています。

杉並区立桃井第四小学校の

「拡大版 CS 会議(6年生児童が参加)」を見学してきました!

杉並区では、平成 17 年度から学校運営協議会制度を導入し、現在では区内全小・中学校に学校運営協議会が設置されています。今回は、桃井第四小学校の「拡大版 CS (コミュニティスクール) 会議」を、本市のモデル校である境南小学校・第一中学校の委員さんや教育委員会事務局職員が見学してきました。

同校の「拡大 CS 会議」は、学校の主人公である児童と直接交流することで、学校の教育活動に関する検証や今後の学校運営に関する議論を充実させる目的で実施しているものです。

見学の様子

体育館に続々と参加者(保護者、地域の方、教育委員、指導主事ほか教育委員会事務局担当者など)が集まる中、進行役の CS 委員から今日の流れについて説明がありました。(CS 委員はピンクのポロシャツを着ています。) その中で、会議参加の招待状を児童に出したことや、会議では学校においてどんな学びをして、何を得たのか、なぜそう思ったのかを児童から引き出すリードを参加者に依頼していました。

大学生の CS 委員が作成した動画上映や、参加者全員の自己紹介の後、6年生が入場し、いよいよ 18 グループに分かれて協議が始まりました。テーマは、① 6 年間で振り返って思い出に残っていること、② 桃四小がどんな学校になってほしいか、です。

協議内容の一例をご紹介します。

- ・長縄グランプリが思い出に残っている。たくさん練習して記録が出せた。
- ・マラソン大会は、走る距離も長くて寒くていやだ。

⇒好きな場所を走れるようにする、長そでも可とする、順位を付けない、などの改善案が出る。

- ・「もしまつり」(=CS 主催の祭り)の屋台を増やして毎年やってほしい、「もりんピック」や「桃四うどん」を引き継いでいきたい。

⇒卒業したらぜひボランティアとして来てほしい。卒業してもみんなが集まれる場所にしたい。

- ・将来自分自身が有名になって桃四小に戻ってきてその時の児童たちに教えたい。

どのグループでも笑顔が見られ、どの児童も活発に意見を出し、委員との距離も徐々に縮まっている様子が印象的でした。

児童が退席した後も、大人たちはまたグループになり、振り返りと意見共有をしました。CS 委員は、さらにその後、協議内容を踏まえて今後学校運営に今回の意見をどう取り入れていくかの会議を行っていました。

武蔵野市の見学者は、最後に桃井第四小学校の地域コーディネーターと杉並区の指導主事との懇談の時間をいただき、CS 立ち上げ時にどのように学校・家庭・地域が関係を築いていったのかや、杉並区の CS の特徴、教育委員会の役割など様々な有意義なお話を聞くことができました。



見学する委員さん達



グループの輪にも参加



積極的に発表する子どもたち

見学した感想

参加者の大人が学校の様子を本当によく知っていて、子どものどんな発言にも対応していました。学校を「語る」ことができていました。

「拡大会議」は、子ども、学校、地域、保護者等に情報を共有できる非常にいい機会だと思います。

どんなことをしているの?と聞かれたときに委員全員が答えられるようになったらいいと思います。

CS への理解や共感を得るために、キャッチフレーズ「サーモン計画」をつくり、教師や生徒との対話を醸成しており、ブランディングができていることに驚きました。

